

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

団塊の世代等を対象とした生涯現役型社会の環境づくり

2 地域再生計画の作成主体の名称

北九州市

3 地域再生計画の区域

北九州市の全域

4 地域再生計画の目標

我が国は、「戦後のベビーブーム世代(いわゆる団塊の世代)」が高齢期を迎え、平成 22 年に、約4人に1人が 65 歳以上という「超高齢社会」を迎えることが予測される。また、戦後の日本経済を支え、知識・技術・経験豊富な人々が社会の第一線から退くことによる、深刻な社会活力の低下が懸念されている。現在「2007年問題」として対応策が議論されているところである。

特に、本市では、昭和60年の国勢調査を境に、全国平均を上回る速さで、高齢化が進んでいる。平成17年度末の時点で、65歳以上の人口に占める割合が22.4%であり、全国の政令指定都市の中で、高齢化率が最も高い状況になっている。そのため、「超高齢社会」が既に眼前にまで迫り、強い危機感を抱いている。また、本市は製鉄業など高度成長を支えた産業を基に発展したため、それを支えていた「団塊の世代」への社会依存度が高いものとなっている。それ故に「2007年問題」への対処もまた必要となっている。

これら、「超高齢社会」・「2007年問題」の根底には、「高齢者」の増加は、社会負担の増大と活力の低下を招くという考え方がある。しかし、高齢者は、職場や家庭、地域社会など様々な場面で、長年培ってきた技術・知識、そして経験といった豊かな個性と財産をもっている。特に、「団塊の世代」に属する方々は、我が国の困難な時代を乗り越えてきた活力あふれる方々である。これまでの高齢者像が塗り変わることになると考えられている。

本市は、「高齢者」というものの在り方を変革することで、課題の解決を図ろうとしている。

具体的な取組として、本市は、平成 18 年度から進める北九州市高齢者支援計画の基本目標の一つとして、「生きがいのあるシニアライフの実現(生きがいとやりがいが持てる高齢期の実現)」を掲げている。

その一環として、「団塊の世代」を含めた、これまで時代を引っ張ってきたアクティブでパワフルな方々に、今まで培ってきた能力を眠らせることなく、退職後もその技術や経験、能力や人脈などを活かし、産業活動や社会貢献活動などの担い手として活躍していく人材の発掘と育成を行う「生涯現役夢追塾」を平成 18 年 6 月に開設し、第 1 期生として 62 名が入塾した。

この取組を発展させ、塾生をはじめとする高齢者が社会活動に積極的に参画できる体制作りのため、地域再生支援措置を活用し、「生涯現役夢追塾」をベースとした「夢追いサミット」を開催する。「夢追いサミット」は、学識者の地域間交流パネルディスカッションと、オーラルヒストリー成果発表、夢追塾第1期の総括、関係者による世代間交流パネルディスカッションで構成される。同時に交流・交歓の場を設け、世代間・地域間交流ネットワークの基礎固めを行うと共に、今後の事業の展開に向けた意見交換の場とする。地域に対し相互に働きかけられるネットワークも構築する。

これにより、高齢者が、地域社会をはじめとして、国際社会、地域産業社会などの様々な分野で自らの役割を見出し、年齢にとらわれず長年培ってきた技能や知識、経験を活かし、自分らしく生涯現役として活躍するため、「生涯現役型社会」の環境づくりを行う。

これらの取組を通じ、「団塊の世代」を含めた新世代型高齢者の力を活用し、北九州のさらなる活性化、とりわけ経済の活性化を図るとともに、「団塊の世代の活躍モデル」として確立させ、本市から全国へと発信していく。

さらに将来的には、本取り組みをきっかけとして、全国から人材が集まるビクターズインダストリー（「来訪者＝都市の賑わいの源」と捉え、従来の単なる「集客ビジネス」と捉えるのではなく、環境整備や産業創造等を誘導する「産業」と捉える考え方）に繋がることを期待する。

5 目標を達成するために行う事業

5-1 全体の概要

全国の政令市の中で高齢化率が最も高い本市では、「団塊の世代」を含めた、これまで時代を引っ張ってきたパワフルな方々に、今まで培ってきた能力を眠らせることなく、退職後もその技術や経験、能力や人脈などを活かし、産業活動や社会貢献活動などの担い手として活躍するための人材の発掘と育成を行う「生涯現役夢追塾」を開設した。この夢追塾をベースに、地域再生支援措置を活用し、「夢追いサミット」を開催することにより、塾生をはじめとするこれから高齢者が社会活動に積極的に参画できる「生涯現役型社会」の環境づくりを行う。

5-2 法第4章の特別の措置を適用して行う事業

該当なし

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置による取り組み

○地域再生に資するNPO等の活動支援（内閣府）：C2001

市民活動団体等支援総合事業（人材育成事業）

(1)夢追いサミットの実施

生涯現役「夢追塾」をベースに、団塊の世代の持つ活動的なものの考え方、経験、エネルギーの背景を探り活かすための「夢追いサミット」を実施することで、新しいまちづくりの方策を求める。

「夢追いサミット」は、学識者の地域間交流パネルディスカッションと、オーラルヒストリー一成果発表、夢追塾第1期の総括、関係者による世代間交流パネルディスカッションで構成される。また、同時に交流・交歓の場を設け、世代間・地域間交流ネットワークの基礎固めを行うと共に、今後の事業の展開に向けた意見交換の場とする。この事業を通じ、地域に対し相互に働きかけられるネットワークも構築する。

■実施内容

地域間交流パネルディスカッション

夢追塾塾長〈民〉をはじめ、大学教授〈学〉、行政関係者〈官〉など、技術技能伝承の確立や新たな少子高齢化社会の構築に向けて、前線で活躍する学識者や団塊の世代（夢追いの人々）を参加者として全国から集め、これからの日本における「生涯現役として活躍するこれからの高齢者像」をテーマにしたパネルディスカッションを行い、全国の地域間交流を図る。

世代間交流パネルディスカッション

世代間交流パネルディスカッションの前提として、夢追塾生が専門講座に移る秋にオーラルヒストリー・プロジェクトを実施。このプロジェクトは、地元の大学(九州大学大学院、北九州市立大学、西南学院大学)の学生・院生30名が塾生をインタビュー・取材し、団塊の世代の生き様をまとめるもので、団塊の世代と学生間の交流を密にし、それぞれの考え方を学ぶ機会となる。

インタビュー・取材結果はプロジェクト成果物として、対象者(団塊の世代)のヒストリーとなり、大学の指導教官による分析・講評も行われる。

オーラルヒストリー・プロジェクトの最終成果は「夢追いサミット」で一般公開されるとともに、大学・夢追塾共通の財産として保存され、一般公開する。この事業モデルケースがこれから各地域の発展の足がかりとする。

世代間パネルディスカッションでは、このプロジェクトに参加した学生・塾生を中心に、これからの高齢者の活躍を踏まえた「地域における異世代間の役割分担(案)」を考えたい。

- 実施時期 平成19年3月4日(土)または、11日(土)
※「夢追いサミット」の開催時期は、塾生の自覚と責任を新たにしてもらい、社会再復帰を応援する意味を込め夢追塾の修了時期であり、またこれから新たに夢を追いかける方々の出発の時期でもある3月を予定。
- 実施主体 NPO法人里山を考える会(代表:関 宣昭)

5-3-2 支援措置によらない独自の取り組み

本市では、これまで、全国に先駆けて、公民館や市民センターにおける生涯学習や、趣味やスポーツを通じた生きがいづくりや仲間づくり、健康づくり、さらには地域活動の人材育成のための年長者研修大学校などの取り組みを進めてきた。

また、平成18年度から始まる本市のまちづくり計画(北九州市ルネッサンス構想まちづくり推進計画2010)においても「人材創造のまち」を第一の柱に掲げており、今後は、年長者研修大学校等に加え、知的創造性を持つ人材などの育成確保がなによりも重要であると考えます。

さらに、これからの高齢期を迎える団塊の世代は、人口もさることながら、人材面でも層の厚い、非常に大きなパワーを持つ世代でもある。この世代は、そろそろ仕事や組織から解放され、セカンドライフにおける自分の夢を追う準備や実行ができる時期にあり、この動向を捉え、活かすことが、将来的にも、本市の活性化に繋がることになると考える。

(1)生涯現役夢追塾の実施

本市では、これまでの公民館講座や年長者研修大学校などの生涯学習講座から発想を転換し、今まで培ってきた能力を眠らせることなく役立て、産業活動や社会貢献活動の担い手として、「生涯現役」で活躍するため「生涯現役夢追塾」を本年6月に開設し、地域産業の活性化を図るとともに、新たな生きがい施策を進めている。

- 対象者 生涯現役を目指す意欲あふれる50歳以上の人
※平成18年度は、書類審査、面接審査で選ばれた62名が入塾。

- 講座内容 「総合コース」と4つの「専門コース」で構成

○総合コース

総合コースは専門コースに進む前に、塾生全員が受講するもので、その中には「夢探し」、「自分探し」の場であり、自己能力の整理・再確認の「コーチング」の講座も実施する。

夢探し…漠然と考えている将来の夢を整理し、より実現性のある夢の可能性を探る。

自分探し…夢を実現するために、自己分析を行い、自分の強みや弱みを明確にする。

コーチング…後進指導などの専門コースにおいても必要とされることから、「コーチング」を学び、自己表現能力の向上を図る。

○専門コース

総合コース終了後、自分が希望する専門コースに分かれ、大学のゼミのような15名から20名の少人数クラスで実施する。

起業独立(ファウンダー)コース

専門分野を活かして起業独立するために必要なマネジメント方法や税金・法律の知識、目指そうとする分野の現状認識・最新情報、スタッフ・人材の選び方などを学ぶ。

NPOコース

今まで培ってきた経験や知識・人脈などを社会やまちづくりに活かすNPO法人の設立・参画を目指し、その基礎知識から実際の設立の方法、活動ノウハウ、設立後の課題までを学ぶ。

指導者育成(マスター)コース

人を指導し、コンサルタントするための技術の習得を目標に、能力の引き出し方、コミュニケーション技法、評価基準の設定法など、指導者・教育者として必要な基礎知識を学ぶ。

地域企業支援投資(エンジェル)コース

投資の種類と方法・リスクマネジメントなど投資に関する知識と、それを地域企業支援に活かすための投資対象の研究・評価方法や地元で頑張っている企業の情報など、投資家として地域活性化を目的とした地元企業等の支援を行うために必要な知識を学ぶ。

■実施時期

6月から翌年3月まで(週1回、平日、18:30~20:00)

※20:00に講義を終了し、塾生同士や講師を含めた交流を図る。

■実施場所

市内主要駅隣接施設(AIMビル、ウェルとばた など)

■特徴

- ①各専門コースの担任の先生ともなるナビゲーターを配置し、講座内容だけでなく、進路相談等親切的な指導を行う。
- ②講義は、大学のような座学の講義ではなく、アメリカのMBAのような、企業やNPOの実践家や専門家による実践的な講義を行う。また、コースを横断するような講座も実施する予定。
※具体的には、起業独立コースで進めた事業計画について、地域企業支援投資コースの塾生が、投資するに値するか評価する。また、その評価内容を、起業独立コースは、分析し討議し、さらに精度を高めるなどそれぞれのコースの実践の場として、進めていく。
- ③生涯現役夢追塾では、このネットワークを在塾中だけでなく、修了後も継続するため、サロンの場を提供し、受講生間の交流も図り、地域だけでなく、知的創造のネットワークづくりも図る。
- ④希望者には、企業やNPOと連携し、実際の現場での実習・研修を実施する予定。

(2)大人の時間講座の実施

団塊の世代を中心とするこれから高齢期を迎える方々(50歳以上の方を対象)の多様化するニーズに応え、「遊び心」「おしゃれ心」をキーワードに、都心での街のにぎわいと、地域の特色を生かした講座を実施し、この講座を契機に同世代間のネットワークを広げ、まちおこしに興味を持ってもらうとともに、地域の活性化を推進する。

[平成 17 年度実績]

小倉都心エリア (9 月～12 月初めまでの全 10 回実施)

小倉の商店街の店主を講師に迎え、衣食住についての講座を実施。店主のまちおこしに関する意識改革と、受講生の地域のまちおこし活動の促進を図った。

門司港エリア (12 月～3 月までの全 9 回実施)

レトロの街・門司港とアートの街・門司港の二つの側面から講座を実施。上質な時間を楽しみながら、新たな地域の顔にふれ、まちおこしの契機を促した。

※ 現在、大人の時間講座の受講者の中で、同窓会活動が始まり、地域のまちおこし活動を行っている。

6 計画期間

認定の日から平成 21 年 3 月末まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

夢追いサミット参加者全員に対し、アンケート調査を行い、満足度、事業内容に対する感想を把握して、評価を行い、今後の事業展開の資料として活用する。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

特になし